

1 防災・減災に向けて

平成23年の「3.11東日本大震災」をはじめ、近年、日本各地で想定を超える自然災害が発生しています。この「胎内市防災ガイドブック」は、これまでの風水害、土砂災害、地震、津波の教訓等を踏まえ、胎内市の特徴（想定される災害の規模）を整理した上で、災害発生時の避難のポイント（取るべき行動・事前準備）、予測される被害範囲を地図化したハザードマップとその見方についてまとめたものです。市民の皆さまの災害時の備えとしてぜひご活用ください。



自然災害は想定を超える場合があります。
最悪の場面を想定して避難しましょう！

言葉の定義紹介

防災 災害を防ぐと書くように、災害を未然に、あるいは直接防ぐ様々な行為、取り組みなど。

減災 災害発生時において、被害を拡大させず最小化するための取り組み。

※近年では危ない所には住まない・近づかないといった「ひさい避難」、災害を受けないように安全な場所に逃げる・めんざい適応策を考える「免災」といった概念もあります。

東日本大震災の教訓から

出典：東日本大震災時の地震・津波避難に関する特定集落へのヒアリング調査結果（速報）（H24.9.28 内閣府）
（調査対象：青森県、岩手県、宮城県、茨城県及び千葉県の15集落・約260人）をもとに作成

項目	犠牲になった方の行動	避難した方々の行動
避難意識	<ul style="list-style-type: none"> ●避難しなかった・できなかった <ul style="list-style-type: none"> ・「自分は安心だ」と判断した ・あきらめてしまった ●逃げ遅れた <ul style="list-style-type: none"> ・家族の帰宅を待っていた ・地震後の後片づけをしていた ・どうしたらよいか迷ってしまった 	<ul style="list-style-type: none"> ●すぐに避難した (きっかけ) ・自己判断 ・警報や周囲からの呼びかけ ・伝承などの教訓
情報入手	<ul style="list-style-type: none"> ●誤った情報を信じて、家に戻ってしまった 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報を入手できた・警報を聞いた
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ●車で避難し、障害物や渋滞に巻き込まれた ●移動手段がなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ●要援護者（高齢者・子ども等）への支援ができた
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ●決めていた避難場所が津波には危険だった ●家族を探しに家に戻ってしまった 	<ul style="list-style-type: none"> ●決めていた避難場所に避難 ●決めていた避難場所以外に避難

得られた教訓

- 命の確保が最優先
- 避難開始までの数分の差が生死を分ける

得られた教訓

- 情報は更新されるもの
- 情報入手手段は複数確保しておきたい

得られた教訓

- 避難は徒歩が望ましい
- 要援護者の避難も事前に誰がどうするか決めておくべき

得られた教訓

- 災害によって最初の避難場所はかえるべき
- 最終的にどこに集まるかを決めておく

**自分の命は自分で守る！
自分たちの地域は自分たちで守る！**

災害によって安全な場所が違うため「絶対に安全な場所は地球上に無い」と考えられています。どんな災害であっても「事前の準備」や「発生時にすべきこと」について家族や親戚、地域などできちんと話し合い決めておけば、命を落とす危険性は極端に低くなります。この防災ガイドブックを使って、災害ごとに考えられる準備、発生時の対応策、避難の場所など家族で話し合っておきましょう。



防災の心得

①事前準備

■避難情報の種類を認識する
防災メールに登録しておく
(P7参照)



■自宅周辺の危険性と避難路の確認

自宅の近くにどんな避難所と避難施設があるのか、家族で一度現地を歩いてみましょう。



■自主防災組織を結成する
(P42参照)



■非常持出品の準備

避難のときに持ち出す荷物は最小限にし、場所を決めて持ち出し袋にまとめておきましょう。また、内容を定期的に確認しておきましょう。



②災害発生前

■自主的な避難準備

雨の降り方がいつもと違うと感じたら、ラジオ、テレビなどの最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。また、そのときにいる場所の周辺で危険を感じたら自主的に避難準備を始めましょう。



■避難の呼びかけに注意を

市では、みなさんの避難が必要と判断したときは、防災行政無線、サイレン、広報車、テレビ、ラジオ等あらゆる手段で避難の呼びかけをします。



③災害発生時

■避難するとき

戸締り、火の始末をしましょう。貴重品や非常持ち出し品を忘れないよう気をつけましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



■車での避難はひかえましょう

車での避難は渋滞を招き緊急車両の妨げになります。また、道路が冠水すると車のエンジンが止まったり、車に閉じこめられたりすることがあります。特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



■動きやすい格好で避難しましょう

冠水した道路はマンホールのふたが外れていたり、足元が見えないため非常に危険です。手をつないで、先頭の方は長い棒などで確認しながら進みましょう。



■お年寄りや障がい者の方
どの避難に協力しましょう

避難するときには、隣近所に声をかけ複数で避難しましょう。また、お年寄りや身体の不自由な方、小さなお子さんなどの避難に協力しましょう。



④逃げ遅れたら

避難できないと感じたら、無理をせずに、自宅の2階や近所の高台へ避難し、救助を待ちましょう。



【胎内市の高齢化率】

平成22年の国勢調査によると、市内の65歳以上の人口比率は28.5%で今後ますます増加する見込みです。

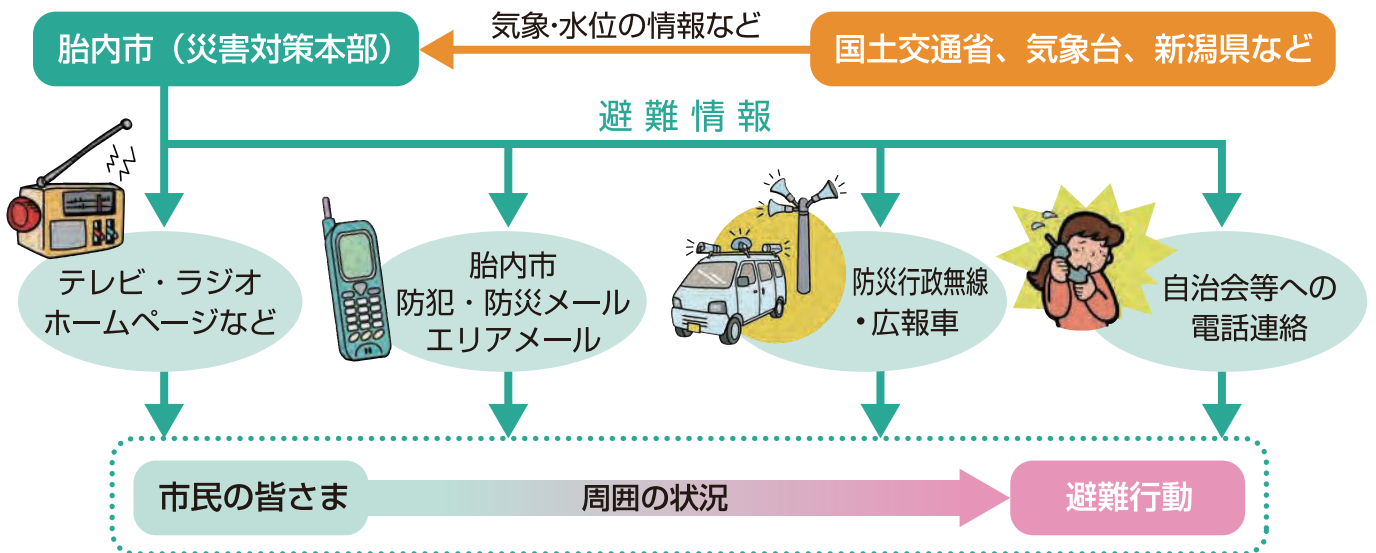
避難情報を入手しましょう

災害が発生した場合やその危険性が高まった場合に、避難情報をお知らせします。**テレビ、ラジオ、胎内市防犯・防災メール、エリアメール、防災行政無線、広報車**などでお住まいの地域の避難情報が伝えられた場合には、右の表のような行動がとれるようにしておきましょう。

避難情報の種類	とるべき行動
避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告に先立って発令します。家族への連絡、非常時持出品の準備など、すぐに避難できる準備を開始してください。一人暮らしの高齢者や体の不自由な人などは避難を開始してください。
避難勧告	避難場所へ避難を開始してください。
避難指示(緊急)	避難をしていない人は、すぐに避難してください。

避難情報の伝わり方

避難の情報がどのように伝わってくるのか確認しておきましょう。



胎内市防犯・防災メールに登録を

防犯・防災メールは、登録された方に対して、胎内市から防犯情報、各種気象警報、地震・津波などの防災情報を電子メールでお知らせするシステムです。24時間リアルタイムで受信できますので、特に海岸部や山間部にお住まいの方は、ぜひご登録ください。

登録方法

携帯電話・スマートフォンなどにQRコードを読み込むかメールアドレスを直接入力し、空メール（何も入力しないメール）を送ってください。登録用のメールが返信されますので、画面に従い登録をしてください。



登録用メールアドレス reg-tainai@tainai.mail-mag.net

エリアメールについて

緊急情報をNTTドコモ、KDDI、ソフトバンクの緊急速報（エリア）メールサービスを活用して、エリアメールを受信できる携帯電話へ一斉配信しています。